



手間要害山 登山道にて

(撮影：桐原真希)

# ソヨゴ

■正体が分からない！

私が初めて手間要害山に登ったのは、平成23年8月31日でした。多くの虫や花を見ながら進んでいたら、灰褐色ののっぺりとした幹肌、白い楕円形のアザがある木が、そこかしこで目に入りました。葉を調べても私の知識では何の仲間かも分からず、実も花も

ない状態では全くお手上げでした。道中優先種とみられる樹木の正体が分からないとは、何とも悔しい思いでの下山。その後秋に同じ道に登った時、たわわに実った赤い小さな実が、まるでクリスマスの彩りのようにトレッキングコースを飾っていました。その特徴で、やっとその気になる木が判明。ソヨゴという名を初めて知ることになりました。

■こんなにネタがある木とは

梅雨時に咲く白い小さな花からは蜂蜜が取れ、白い材はギターのサウンドホールの周囲の象嵌に使われ、そろばんの珠にも使われているとのこと。更には、ソヨゴの葉は両面共に丈夫な作りで、火であぶると中の水分が逃げ切れずに膨らんで、パチンと音を立てて葉が弾けてしまうそうです。別名の「ふくらしほ」は、膨らんで弾ける様が由来にともなっています。また、実が美味しいという紹介はどの図鑑

にも見当たりませんが、今年のは赤い実を味わって実際の味を確かめたいところです。

■魅力ある手間要害山

南部町には、比較的気軽に登ることの出来る低山が3つあります。金華山、鎌倉山、そして手間要害山です。それぞれの山は微妙に植相が違い、出会える草花にも若干の違いがあります。要害山の秋は、赤や紫や黒の様々な実が林縁を飾り、コシアブラやヤマハゼの黄葉紅葉を楽しむことができます。きっとソヨゴの実も必ず目に入ると思います。四季折々様々な表情を持つている手間要害山は、地元の皆さんによって細やかに整備管理されています。この秋、足腰に自信がある方でまだ登ったことがない方は、是非訪ねてみてください。多くの花や実や鳥たちが、それぞれの装いで出迎えてくれることでしょう。

自然観察指導員 桐原真希

祐生出合いの館【緑水湖畔】インフォメーション ■開館時間：9時～17時 ■休館日：毎週火曜日

【2014年祐生カレンダーの注文受付を始めました】 1部1,000円です

板祐生は、「玩具の心が絵に浸徹するくらい私はやって見たい」と孔版制作の決意を語りました。今回は郷土玩具の作品を使いました。祐生奮闘の結果をご鑑賞ください。



表紙

2月

5月

8月

11月